



BMI:53と高度肥満妊婦の妊娠分娩管理に苦慮した 1 例

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-03-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡本, 華, 齋藤, 渉, 森本, 祐美子, 鈴木, 聡一郎, 松本, 良, 杉原, 弥香, 佐野, 力哉, 石田, 剛, 太田, 啓明, 中井, 祐一郎, 塩田, 充, 中村, 隆文, 下屋, 浩一郎 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004052

第 45 回日本女性栄養・代謝学会学術集会

<一般口演 4>

BMI:53 と高度肥満妊婦の妊娠分娩管理に苦慮した 1 例

1 川崎医科大学付属病院 産婦人科

岡本 華

齋藤 渉 1) 森本祐美子 1) 鈴木聡一郎 1) 松本 良 1) 杉原弥香 1) 佐野力哉 1) 石田 剛 1) 太田啓明 1)
中井祐一郎 1) 塩田 充 1) 中村隆文 1) 下屋浩一郎 1)

諸言

今回解離性障害を基礎として高度肥満に由来する糖尿病合併妊娠、高血圧合併妊娠の妊娠分娩管理に苦慮した 1 例を経験したため報告する.

症例

症例は 31 歳、4 妊 0 産 3AA の初産婦.解離性障害を認め加療を行っていた.非妊娠時の生活では家事等はヘルパーが行っていた.

自然妊娠にて妊娠成立,非妊娠時の体重は 156 kg,BMI は 56.3 であった.生活保護受給者であったため,福祉事務所を通じて妊娠 12 週時に当院に紹介となった.妊娠 22 週時に血圧 182/124 mm Hg と重症域の高血圧を認め妊娠高血圧症と診断,ニフェジピン 40 mg の内服にて非重症域でコントロールしていた.妊娠 27 週 6 日に随時血糖 214 mg/dL と高血糖を認め HbA1c は 6.4%と妊娠中の明かな糖尿病と診断した.当院糖尿病内科と相談し本来であればインスリン療法の適応であるが解離性障害を合併しており厳密な食事療法やインスリン療法は困難と判断,食事療法にてコントロールする方針とした.妊娠 33 週時に有痛性の腹部緊満感を自覚し安静目的に入院した. 分娩様式については解離性障害・高度肥満のため緊急時の対応が不可能であることから妊娠 37 週 6 日に予定帝王切開の方針とした.

妊娠 36 週から徐々に腹部緊満感が増強し妊娠 36 週 6 日に規則的な有痛性子宮収縮となったため帝王切開の方針とした.腰椎麻酔下にて帝王切開術を施行,仰臥位に体位変換直後から収縮期血圧 60mmHg まで低下しエフェドリンにて昇圧を行い手術開始した.下腹部縦切開にて 3563g(LGA:99%tile)の男児をアプガースコア 3/5 点にて娩出した.術後経過は良好にて術後 7 日目に退院となった.

考察・結語

解離性障害を基礎に持つ高度肥満の糖代謝異常・妊娠高血圧症の合併妊娠の症例であったため、本来であれば血糖コントロールのためにインスリン療法を施行することで巨大児を予防し経膣分娩での児の娩出を考慮するところであろうが解離性障害を基礎として持っており困難であった.